

幕内瓦版 第十号

発行 日本劇場技術者連盟

◆巻頭言

新たなる 2011 年の飛躍への願いを込めて

理事長 齋藤 譲一

新たなる年明けです。しかしながら、日本社会は政治の混迷や長引く経済不況から若者にとっても前代未聞の就職難です。雇用の促進も景気の回復にもこれといった処方箋が効かないようで、文化の先行きにもますます暗雲が漂っています。そんな中で昨年来から、文化庁の指導もあって劇場法の成立が急がれていますが、限りある国や地方自治体の文化予算ではその効力にも疑いを持たざるをえません。むしろそういった状況下だからこそ、劇場やホールで働くプロとして「劇場技術者のステータスの向上」に向けたいっそうの努力が私たちにも求められています。そして、苦悩する若者が一人でも多く「劇場技術者になってみたい」と未来を感じてもらえるようになりたいものです。

「日本劇場技術者連盟」としては、今年もみんなで力を合わせて、さまざまな企画を出し合い一步一步と社会の閉塞感を打ち破って行こうではありませんか！

それには、勇気と元気を合わせ持つ劇場技術者が、地域の文化面での非営利活動などにも目を向け、地域の人たちと積極的に手を結んで企画を立ち上げるのも解決の一策ではないでしょうか。公立文化施設がこぞって事業予算を削られる中、地域文化の向上を推進するには、心ある地域住民との協力関係の構築を必要としており、文化創造面のプロである劇場技術者との連携を深めることで、その打開を図っていききたいものです。私たち劇場技術者がひとりひとり誇りを持って地域に役立つ存在になれば、おのずから劇場技術者が飛躍する年となるでしょう。

■裏方の教養講座（演劇編）の報告

一般社団法人日本音響家協会と共同で主催した「日本で演じられてきた演劇たち～創造する劇場技術者のために」は、2010年11月29日（月）、東京・新宿文化センター第2会議室で開催されました。

伝統芸能の雅楽・能楽・文楽・歌舞伎・オペラを八板賢二郎が、新派・新国劇・新劇・アングラ演劇・小劇場演劇・ミュージカルを齋藤譲一が、経験談を交えて、分かりやすく解説しました。

北陸、関西、東北から、また照明、美術、音響、俳優といった広範な受講者となりましたので、交流会ではいつもの機器の話題は無く、劇場法や指定管理者、今後の劇場運営、後進の指導などが話題となって、いつもと違う雰囲気の実りある会となりました。

◎裏方の教養講座を受講して

富山県・山本広志

当日、私は富山空港から、福井の西畠さんは小松空港から羽田入りし、待ち合わせて国際線ターミナルへ直行。お目当ては「江戸小路」。Tシャツや手ぬぐい、風呂敷などのお店が並んでいたが、お客はほとんど日本人の観光客。料理店を覗いてみればランチにはちょっと高い？2,000円以上の品々。上階の東京ポップタウンに行けば、プラネタリウムは行列状態。とりあえずファーストフードで国際線ターミナルの雰囲気だけを感じて、途中、浜松町でランチを済ませ、新宿文化センターへ。

講座の前半は八板氏が講師。日本の伝統芸能の歴史について雅楽から能楽、歌舞伎のお話。日本の舞台の原型が雅楽にあると聞かされ、納得。

後半は、齋藤氏の明治時代からの演劇の歴史からミュージカルの話。実際に役者経験のある氏の話は、妙に説得力がある。この講座で聞いた内容は実に面白く、劇場やホールを運営に携わる者として最小限必要な知識（教養）ではないかと切に感じた。機会があれば、ぜひ、北陸でも開催したいものである。

夜は、受講者で懇親会。関西をはじめ、いろいろな所から参加している。初対面でも同じ仕事仲間だから盛り上がりがないわけがない。またひとつ、いい思い出ができた。

◎裏方の教養講座を受講して

千葉県・伊代野正喜

「日本で演じられてきた演劇たち、創造する劇場技術者のために」と題したセミナーに出席した。

セミナー参加者は関東を中心とした25名程度であるが、浜松、関西、北陸と遠方からの参加もあり、メモを熱心にとる参加者も多く関心の高さが伺えた。

八板氏は昨年11月に新評論から「音で観る歌舞伎～舞台裏からのぞいた伝統芸能～」と題した本を出版し好評を得ており、NHKテレビをはじめ各方面でこの書物を取り上げている。本書は舞台出し物と見立てたページには伝統芸能の全般の解説と裏方の技術解説を網羅しており、特に伝統芸能における音響という観点からの切り口は、舞台音響に係わる関係者だけでなく、広く伝統芸能に係わる方々の必読の書とも思える。

セミナーで八板氏は伝統芸能を「非日常の世界」と位置づけ雅楽、能楽、人形浄瑠璃（文楽）、歌舞伎、そしてオペラについてその成り立ちと現代にまで継承している系譜をわかりやすく、かつ丁寧に解説された。また各々の古典芸能の難解と思われる用語を現代の日常に照らし合わせ解説をされた。雅楽は25名の奏者（宮内庁式部職）から成り立ち、奏者の飛

行機による移動は全員同時ではなく、半数に別れて移動し事故に対しての安全対策をしているとのことである。

歌舞伎の三大作家の一人である河竹黙阿弥は「三親切」を求め、一に劇場が喜ぶ、二に役者が喜ぶ、三に客が喜ぶ、を旨としていたとのこと、現在のホール運営にも通ずると話されていた。

拍子木についても述べられ、歌舞伎公演の映像を観ながらの解説では、拍子木を打つ事によるキッカケを説明後、映像を見ながら拍子木の代わりに指先で机を叩くタイミングは、八板氏ならではの間合いがあり、目と耳を惹き付けさせられた。

齋藤譲一氏は明治からの演劇について時系列に新派、新国劇、新劇そしてミュージカルを解説し各々の時代に活躍した劇作家、俳優の方々の足跡を明快に裏話など交えて生々しく紹介した。

新派については、文学的であり女性客が多く、1917年に始まったとされる新国劇は男性客が多いとの話には新国劇を盛り上げた島田正吾、辰巳柳太郎などの名前に聞き覚えのある私にはうなずけるものがあった。

何よりも、新劇以後についての講義は齋藤さん自身の経験も多くあり、劇団の理念を展開活動する場として演劇が位置づけられており、そのときどきの若者文化を反映して何かの形にすることが演劇であると力説しておられた。

1200年の歴史を持つ雅楽以後、能楽、人形浄瑠璃(文楽)、歌舞伎、が発生し現代に受け継がれている古典芸能。一方、明治以後、新派、新国劇、新劇、そしてミュージカルと、形式は変わっても観客は変わらない舞台空間での催しについて「日本で演じられてきた演劇たち、創造する劇場技術者のために」と題したセミナーは日本での演劇を振り返り、これからを見定めるよい機会となったことは確かである。

◆会員からの便り

◎仕込み時間の取り扱い

福井県・山下祐治

私が現在勤務しているホールでは、利用者が借りている時間内に舞台関係の仕込みをすることになっていますが、皆さんのホールではいかがでしょうか？

以前、他地域のホールに勤務していた頃は、近隣のホールも含めて、ほぼ事前にある程度の仕込みをしておいて、利用者が来館されたら出来るだけ早い時間にリハーサルなどを開始できるようにしていました。

それによって利用者は助かるわけですし、ホールへの印象もアップして利用促進につながると考えていました。特に地方だとホール利用率も決して高いとは言えませんので、小さなことから努力を続けることが必要ではないかと思えます。

指定管理者の立場にはありませんので、現在の状況を変えることはできませんが、自分なりに利

用者の利便性を考えて、できるだけ事前準備をしておく努力は続けて行きたいと考えています。

◎ピアノ発表会

茨城県・阿部喜一

私事ですが、妻がピアノ講師をしていますので自宅教室の発表会の企画・制作をやらされます。

数人の先生が合同でやるので、共通認識ができるように書類をたくさん作ってしまいます。進行表やアナウンス原稿、受付のやってもらいたいこと一覧やオリエンテーションの注意事項などなど。

生徒のイスの高さや足台の有無などを記録する用紙も作りました。背付きイスには、テプラで作った目盛り(黒テープに白抜き文字)を貼り付けてあり、その記録をリハーサルでとるようにしています。

知り合いのボランティアさんをお願いして、会場係をやっているのだから、走り回っている子どもがいればすぐに飛んで行って親子室に案内してくれます。また、記念品として当日の録音をCDにしてあげるのだから、お互い静かにしなければいけない状況になっています。

友人の調律さんに録音までお願いしていますし、アナウンスもボランティアさんだし、ちょっと職権乱用のところはありますが、他のピアノ教室の発表会にも蓄積したノウハウをフィードバックしていきたいと考えています。

◎主催者は我々を見ている

東京都・滝善光

東京駅前のビルの中に民間のホールがある。使用料は1日90万円、人件費と付帯設備をいれると120万円ほどの支払いになる。客席は300席しかないが稼働率は高い。

新幹線を降りて10分ほどで客席に着くことができる。新幹線網が整備された現在、関係者の宿泊代を考えれば120万円も安いのだろうか。

もっぱら企業イベントに使用されているが、新製品発表会であったり高名な方の講演会だったりすると、ホール技術者に要求される仕事もシビアになる。音声の頭切れなどミスによって音響設備費が不払いになったこともある。主催者としては払うお金が惜しいのではなく、築き上げてきたプロジェクトの最後でミスをしたペナルティーだと考える。だから、一人のミスが管理会社の経済的負担になり、それが続くとうがて会社間の契約問題に発展しかねない。

長引く不況の中、ホール管理の仕事も採りにくくなっている。そんななか、我々劇場技術者は1番に営業力が求められるのではないだろうか。技術、接客態度がしっかりしていれば自ずと仕事は広がっていくはずだ。

現に新しく音楽ホールを創る企業のオーナーが、あるホールの技術者の働き振りをみて、その管理会

社に仕事をまかせたということもある。観客は舞台を見、主催者は我々を見ている。

◎劇場間交流のすすめ

東京都・八板賢二郎

瓦版9号に会場費の未払い急増という記事が掲載されていましたので、民間のコンサートホールを訪ねてお話を伺って参りました。

やはり音楽界も不景気で自転車操業とのことで、会場費の未払いが増えているということでした。クラシックコンサートの主催者の規模は小さく資金繰りに困っているようで、公演が終わってしまうと会場費の支払いを犠牲にしてしまうようです。

「裁判沙汰にもしてみました、裁判経費が掛るだけで効力はなく、結局損をしてしまいました」とのことでした。

公共ホールでは、予約時に半額支払い、当日の開演前に残りの半額を支払うという方式が多いようですが、民間ホールではこれまでの付き合いもあり前金制に変更するのは客を逃すことになり困難のようです。それならば新規の相手からでも前金制に切り替えてはどうでしょう。

30年ほど前までは、私たちのギャラも含めて、開演前に支払わなければ幕が上がらなかったのですが、バブル期から鷹揚になって口座振込で安心していましたが、世知辛い現在では通用なくなっています。

私も若いときは、夜討ち朝駆けでイベント会社に出向いてしつこく食い下がって先付小切手を貰ったり、逃げられたりの経験を数多くしています。

このような経験から、怪しい企画は肌で感じられるようになりましたし、それを見分けるコツも覚ええました。

形の残らない商品を売ると言うことはリスクも大きくなりますが、その中で一握りの成功を追い続けるのも楽しいものです。

さて、よく利用している新宿区文化センターは、利用者登録をしておけば電話で会場予約をして、7日以内に料金を銀行口座に振り込めば成立というシンプルなシステムになっています。会議室などは当日に事務所へ挨拶に行く必要もなく、時間になると守衛さんが鍵を開けてくれて、終了後は事務所に内線電話をすれば済むというシステムで、重宝しております。まあ、ここには貸し手と借り手に信頼関係があるわけです。

「あそこは未払いでも逃げられるぞ」となると、利用者の名前を次々に変えて申し込むというような詐欺まがいのことをされてしまう恐れもあります。

民間どうしても難しいかもしれませんが、劇場間の連携を密にして、知恵を出し合うことが必要ではないでしょうか。また公立劇場と民間劇場が、相互にノウハウを学びあうのも良いと思います。

そして、それぞれの異なった境遇を克服して、明るい劇場運営を楽しみましょう。

このような環境を構築するのが、日本劇場技術者連盟の使命ではないかと、私は思うのであります。

■第1種・第3種劇場技術者検定講座 桶川（埼玉県）開催のお知らせ

- ・舞台進行スタッフのための第1種劇場技術者検定
- ・市民のための第3種劇場技術者検定

日時：2011年3月10日（木）10:00～11日（金）

両日10:00開始（2日間の講座です）

会場：桶川市民ホール

高崎線・桶川駅南口から徒歩5分

受講料：第1種劇場技術者検定 /12,000円

※ 連盟会員・会友社員（3名迄）8,000円

第3種劇場技術者検定 /4,000円

※ 桶川市民 教書代のみ2,000円

申込方法：お名前・ご住所・ご連絡先（電話等）

ワンコイン交流会（500円）への参加・

不参加を明記

申込先：日本劇場技術者連盟検定係

◎ FAX：042-361-8982

◎メール：teec@pure.ocn.ne.jp

主催：日本劇場技術者連盟

■第1種・第3種劇場技術者検定講座 宮崎と長崎で開催

◎宮崎開催

日時：2011年3月1日（火）～3月2日（水）

両日10:00開始（2日間の講座です）

会場：宮崎市民文化ホール

◎長崎開催

日時：2011年3月15日（火）～3月16日（水）

両日10:00開始（2日間の講座です）

会場：長崎公会堂

受講料（両会場共）

第1種劇場技術者検定 /12,000円

※ 連盟会員・会友社員（3名迄）8,000円

第3種劇場技術者検定 /4,000円

※ 長崎市民 教書代のみ2,000円

申込方法（両会場共）

お名前・ご住所・ご連絡先（電話等）

ワンコイン交流会（500円）への参加・

不参加を明記

申込先（両会場共）

FAX：0986-36-4319（出井稔師宛）

メール：jiji3613@mbn.nifty.com

主催：一般社団法人日本音響家協会九州ブロック

主管：日本劇場技術者連盟

協賛：宮崎県音響照明舞台協同組合

後援：九州公立文化施設協議会

■ T E E C キャリアアップ対称セミナー

以下のセミナーを日本劇場技術者連盟のキャリアアップ対称とします。受講された方は単位授与となりますので、受講後、連盟に申告してください。

◎日本音響家協会中部支部主催・邦楽セミナー (1 単位)

第 8 回「民謡 part 2」

実演家が演奏会などで留意している事柄、また民謡の歴史やジャンルについて日ごろなかなか聞けないことがしっかり学べます。また民謡を拡声 (SR) するときの注意点、三味線や尺八などのマイクの置き方、唄・お囃子、三味線、尺八鳴り物のバランスなども勉強します。興味のある方であればどなたでも受講できます。

第一部：民謡の歴史・民謡のジャンルについて

第二部：民謡演奏の実演と音響実技

日 時：2011 年 2 月 14 日 (月) 10:30~17:00

受講料：3,150 円、学生 1,575 円 (税込額)

会 場：広小路ヤマハホール (名古屋市)

講 師：内藤千賀弘師、犬塚裕道氏

受講は事前登録制です。氏名、住所、連絡先電話番号(携帯可)、所属先名を明記の上、メールまたは FAX で下記宛に申し込んでください。

・メール chubu@seas.or.jp

・FAX 052-409-4580

◎プロオーディオ機器フェア in NAGOYA 2011 (1 単位)

2011 年 1 月 31 日 (月) 12:30~18:30

入場無料

中京大学文化市民会館ブルニエホール
地下鉄名城線「金山」下車 地下連絡通路あり
JR 中央本線 / 東海道本線、名鉄本線「金山総合駅」下車 徒歩 5 分

スピーカ試聴会参加ブランド

・Electro-Voice (EVI AUDIO JAPAN)

・d&b audiotechnik (OTARITEC)

・Turbosound (ALL ACCESS)

・QSC (音響特機)

・TW AUDiO (グラフィカ)

・JBL Pro (ヒビノ)

・L-Acoustics (Bestec Audio)

・NEXO (ヤマハ)

展示のみ参加

・ゼンハイザージャパン ・BOSE ・ローランド

◎舞台監督協会主催 舞台フォーラム 「日本のオペラはこうして作られた」 (1 単位)

日時：2011 年 1 月 24 日 (月) 19 時開演

会場：俳優座劇場 (東京・六本木)

講師：渡辺晋一郎、小田健也、大賀寛他

参加費：3,000 円

◎日本音響家協会東日本支部主催セミナー (1 単位)

楽器を知ろう「パイプオルガン編」

パイプオルガンの音色を聴き、仕組みを探り、実際に楽器に触れていただくセミナーです。

会 場：所沢ミュージズ・アークホール (埼玉県)

西武新宿線 航空公園駅東口から徒歩 10 分

日 時：2011 年 2 月 15 日 (火)、16 時 30 分開始

参加費：無料

講 師：川越聡子氏 (オルガニスト)、三好直樹氏

◎音響家技能認定講座・ベーシックコース (2 単位)

音響の基礎をしっかりと学ぶ、ベテラン講師による好評のセミナーです。

日 時：2011 年 1 月 27 日 (木) 13 時開始

28 日 (金) 10 時開始

(2 日間の講座です)

受講料：15,750 円 (税込額)

申込先：east@seas.or.jp

会 場：桶川市民ホール・プチホール (埼玉県)

主 催：日本音響家協会東日本支部

発行 日本劇場技術者連盟
発行人 齋藤 譲一
編集 阿部喜一、桑原基弘、小松正俊、庄司至、
増田哲也、八板賢二郎、山下祐治
発行日 2011 年 1 月 10 日

日本劇場技術者連盟 / 会友連名

- 甲陽音楽学院 学校法人
- ザ・ゴールドエンジン 劇場運営シンクタンク
- 株式会社東広 ディスプレイ用装飾の加工及び施工
- トランスサウンドテクノロジー株式会社
劇場・ホール管理運営
- 社団法人日本演劇協会 演劇関連団体
- ネットワーク株式会社 音響設備設計・施工、機器販売
- 株式会社パシフィックアートセンター 役務提供、制作
- 株式会社ピーエーシーウエスト 役務提供、制作
- 株式会社マクロスジャパン 携帯電話抑止装置製造販売
- 株式会社松村電機製作所 舞台照明機器製造販売

幕内瓦版 第11号

発行 日本劇場技術者連盟

幕内：劇場の幕の内側のことで、演者・大道具・小道具・衣装・照明・音響など、舞台を創造する者の総称

今回の地震により、多くの方の尊い命が失われたことに深い哀悼の意を捧げます。
また、被災された方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

日本劇場技術者連盟

+++++

■劇場技術者資格認定講座の報告

2010年度は、2011年3月に3個所で開催し、2010年7月の大阪開催と9月の宮城開催を合わせて、約120名の受講がありました。

◆第一種、第三種劇場技術者資格認定講座、桶川開催

2011年3月10日～11日 桶川市民ホール

日本劇場技術者連盟主催

財団法人けやき文化財団共催

●演習中に大地震

地震は、桶川市民ホール（埼玉県）で開催されていた劇場技術者資格認定講座の、最後の演習のときでした。

オープニング音楽が流れ、客電をフェードアウトし、緞帳がアップされました。そのとき緞帳が引っ掛かり破けて進行がストップ。その応急処置をしようとしたとき、揺れが始まりました。

これは只事でないかと察して、高所にある音響調整室と照明操作室に居た受講者たちに楽屋への避難を指示。舞台進行係の受講者も楽屋に避難。そこで揺れの収まりを待ちました。

揺れが収まったのを見計らって劇場外に集合し、受講者と連盟スタッフの員数を確認し、しばらく様子をみました。

この後も余震が続き、停電した舞台を覗くと、吊ってある大きな音響反射板が不気味に大きく横揺れしていましたので立ち入り禁止とし、余震が収まった17時頃、観客席に置き忘れた受講者の荷物を回収して講座の終了を宣言。

この時点で、電車は停まっていたので、受講者は各自の判断で帰宅し、帰宅を断念した受講者は楽屋を避難所として使用することにしました。

そこで、近くのスーパーやコンビニへ食料の調達に走るなど、慌ただしく動きました。既に停電していて電動の自動蛇口は作動せず、手動蛇口を探して飲料水も確保しました。

18時頃、劇場側から非常電源の発電機の燃料が20時で尽きるという連絡があり、立ち退くことにし、調達した弁当などをみんなで分けあって腹拵えをしました。

近くのビジネスホテルを確保しようとしたのですが、既に満室。そこで、桶川市民ホールのスタッフが、昔ながらの古めかしい（実は由緒ある）旅館へ走ってくれて交渉し、素泊まりで3,000円にしてください帰り難民全員が宿泊できました。

今回の検定講座が非常事態の訓練にもなったようですが、被災地ではマニュアルなど通用せず自分の機転で避難しなければ命を落とす悲惨な事態であったことを思うと心が痛みます。

●桶川開催の受講者のご感想

◎本日、第1種劇場技術者認定証を手にして、改めて身の引き締まる思いで一杯です。

1日目の八坂先生の講義から始まり、講師皆様の実習すべてにおいて目から鱗、復習あり、感動あり、すべてが納得のプログラムでした。

十数年間、舞台業務に携わってきた私にとって、とても実りのある認定講習会でした。

また、11日に起きた突然の東北地方太平洋沖地震による大惨事に、講師の皆様、桶川市民ホールスタッフ皆様、そして参加者各自の冷静な判断と危険回避対応は、とても素晴らしかったのではないのでしょうか。

桶川市民ホールにいらしたお客様、及び、私たち認定講習会参加者に、一人の負傷者も見られなかったことも本当に幸いいたしました。

その後の、停電による交通網の混乱により、帰宅難民となってしまった十数名の中にいた私ですが、先生方の適切な誘導と対応、桶川市民ホールスタッフ皆様の温かいお心遣いにどれだけ励まされたことでしょうか。

停電でコンビニ等も閉店、暗闇に包まれた桶川市民ホール、非常用照明のスポットライトを背に、少ない食糧をみんなで持ち寄り飢えを凌いだ楽屋、励まし合いながら過ごした数時間、とてもとても思い出深い一夜となり、生涯忘れられない貴重な思い出となりました。

翌日(12日)の13時ころに徐行運転ではありましたが、電車が復旧、埼玉県桶川市に別れを告げ帰宅の途に。電車乗り継ぎながら18時過ぎ、無事に千葉県鴨川市に到着することができました。

私の勤務するホールは、震度4強とのことでしたが、幸いに大きな被害もなく、照明のネジ等の緩みが激しかったのと、音響照明調整室のダンパーが閉鎖する程度で事無き得ました。

この貴重な体験を無駄にすることなく、今後の舞台技術向上に益々の研鑽を重ね努力すると共に、お客様の安全管理に努めて参りたいと存じます。

最後になりましたが、講師の皆様、桶川市民ホールスタッフの皆様にご心より御礼申し上げます。

(千葉県・尾形英一)

◎懇切丁寧な講義を受講させて頂き、誠にありがとうございました。

解散後、私は一緒に受講しておりました同地域の方と一緒に行動し、桶川駅からタクシーで大宮駅まで行き、それから徒歩で南浦和駅へ行って、近くの小学校の体育館で一泊しました。

翌日、電車が動き出してから、取手駅まで行き、兄弟の迎えの車で無事に地元に戻ることができました。

現在、私たちの会館の被害が大きいため、各部署と連絡を取り合っております。

このたびは大変にお世話になり、誠にありがとうございました。(茨木県・長澤秀夫)

◎大変勉強になり貴重な大変をさせて頂きましてありがとうございました。

特に、私はホテルの仕事が多く、舞台での吊りこみや舞台での演技は初体験で、とても勉強になりました。また機会がありましたら是非参加させて頂きたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。(神奈川県藤沢市)

◎未曾有の災害の中での迅速な対応、お疲れ様でした。

いろいろとありがとうございました。何のご挨拶も出来ず失礼致しました。

その後、詳細がわからず心配しておりましたが、報告(ホームページ)を拝見いたしましたので、皆様の無事を知ることができて安堵いたしました。

私は、桶川駅が18時頃に閉鎖したので、桶川小学校の避難場所で一夜を過ごし、翌日昼過ぎに東京へ戻り、そのまま新幹線にて帰宅することが叶いました。思いがけず避難訓練(!)まで出来て、貴重な体験として今後の業務に活かしていこうと思います。皆様のご健康をお祈り致しております。

(石川県小松市)

◆第一種、第三種劇場技術者資格認定講座、宮崎開催

2011年3月1日～2日 宮崎市民ホール
一般社団法人日本音響家協会九州ブロック主催
宮崎市音響照明舞台事業者組合共催
九州公立文化施設協議会後援

◆第一種、第三種劇場技術者資格認定講座、長崎開催

2011年3月15日～16日 長崎公会堂
一般社団法人日本音響家協会九州ブロック主催
ページワンプランニング株式会社共催
九州公立文化施設協議会後援

●宮崎・長崎開催の受講者のご意見

◎普段、何気なく行っていた作業ですが、あらためて基本を見直す良い機会になりました。

小さいホールの担当者向けの、とてもためになる研修だと思います。もし、次回があれば熊本で行っていただけませんか。特に3種のほうは、地域の「ホールで何かしたい」という人に学んでもらうキッカケになりそうです。

◎実務に則した有意義な講習が受講でき、また講師の熱意に感謝します。

学んだことを、自らが楽しみながら、ボランティアやライブの現場で生かします。第2種を目指して頑張ります。

◎通常業務では行わないことを体験できて良かった。舞台の歴史的な背景や安全防災面でのもっと詳細な研修会があると良いと思います。

◎普段は照明をせずに音響がメインなので、大変勉強になりました。明日からまた現場で活動をしますが、この2日間で学んだことを無駄にしないようにしていきます。

◎普段、音響の業務しかついておらず、照明、舞台のことを基本から学べてとても良かったです。

また、音響も知らなかったことや間違っていて覚えていたこともあり、とにかく2日間は今後に大きく役立つ内容で満足しています。

◎どの分野においても、いろいろと再確認できたので良かったです。

特に照明においては、実際にTopのみ、SSのみ、Frontのみ、CLのみ等の明かりを見たことがなかったもので、それぞれの役割を体感できて良かったです。

また、実習ではいろいろな人の個性がでていて、自分が今後、音響、照明、舞台をする時は各所に気をつけなければならないことを知ることができました。

◎すごくためになりました。受講して良かったです。舞台の経験は浅いのですが、わかりやすかったです。

◎10年、舞台の仕事をやっていますが、このように他の会館の方の進行などを見る機会がなかったので「人の振り見て我が振り直せ」で、自分の今後に生かしていきたいと思います。

また、このような機会を作っていただけたらと思います。

連盟会員の新鮮便

+++++

■東日本関東大震災後の近況報告（埼玉県・戸張浩一）

私の勤務している上尾市文化センターでは、3月11日の東日本関東大震災以降、初期の段階では、安全を考慮して、催事は中止もしくは延期となりました。

計画停電実施以降は、供給電力の不足になるので中止もしくは延期となり、4月1日からは、節電のため夜間の貸出しが中止となりました。

ホールの被害は、大ホールでは目立たない状態で、小ホールで舞台裏ブロックの崩落と控室の窓ガラスの破損という状況でした。幸いにも大震災当日は、催事が入ってはならず人的被害はありませんでした。

まだまだ、余震や福島原発事故も予断をゆるさない状況です。

これから行なわれるイベントも自粛ムードが広がり、日本人の心にかげをおとしそうな状況下にあるなか、自分に何をできるか模索していきたいと思います。

最後に被災された方にお見舞い申し上げます。そして、東北、頑張れ!! 日本、頑張れ!!

■非常事態です（北海道札幌市・山形 等）

多岐にわたり影響が出てきております。

北海道は道東・道南が打撃です。

海を畑としている方々は特に損害が大きいです。

それ以外は震度3でしたが、揺れがゆっくりと長い時間でしたので舞台吊りものの危険度は高かったです。

札幌市教育文化会館では大ホール「二期会オペラゲネ」、小ホール「市民集会」で、いずれも舞台上の方々は楽屋に避難させ、客席はまずは移動せず指示するまで着席願いました。

これはマニュアルどおりで、日頃の訓練とかセミナーで行っていたとおりでした。ほとんどの公共施設では、火災に対する「避難誘導訓練」を主に行っていると思います。

私共は7年前から、地震・水害を含めた天災を想定した訓練を毎年2回、順番で起震車による地震体験も含め実施しております。

他人ごとではなく、いつ自分の身に降りかかるかわかりませんが、俺が、私が、ではなく共同で対応することを心がけた方が良いと思います。

これからも、私たちに何ができるか、やれるかについて考えたいと思います。

この場を借りて、改めて被災地・被災者の方々にお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方々にお悔みを申し上げます。

■地震発生時の対応について（群馬県高崎市・田中 明）

東北地方太平洋沖地震で被災された方には、心からお見舞い申し上げます。

さて、その地震は当地では、非常に長く大きな横揺れで、今まで経験したことのない震度5の強烈な地震でした。

幸い、当劇場では集会的な催しが終わり、入場者も主催者もすべて退館した直後でした。しかし、この地震が公演中だったらどうなったのか？さらに、より大きな興行的な催しで2,000人の観客がいたらどうなったのか？と考えると非常に悩ましい問題が想定されます。

★地震が起きたらどの時点で催し物を中断するのか？

人命最優先、即中断、状況により避難誘導というのは当たり前なのですが、現実として、興行的な催しの場合、非常に大きなお金が絡むので、その判断が難しいところです。また、舞台人は、円滑な舞台

進行を命としていますので、公演を途中で止めるということに大きな抵抗を感じるものです。これも、判断や決断に著しく困難な影響を与えます。そして、それらの事情を抱えた主催者、舞台監督と当館の舞台担当職員が協議し、瞬時に決断する必要があります。

当館では、危機管理マニュアルの中では、震度3～4で中断し、状況判断するとしていますが、実際の運用となると、主催者が舞台袖にいないことも多いので、舞台監督や会館職員の判断で、催しを止める場面が多くあります。これは、大きな決断で、勇気がいる作業です。

今回のような大きな地震であれば、自ずと中断となりますが、それ以下の場合にはまさに悩ましい場面が想定されます。非常に難しいと思いますが、公的な基準や仕組みができて、個人の判断で行動しなくてすむといいのですが。

みなさんの劇場で、何か有効な基準や運営方法があればご教示を賜りたいと思います。

■震災後の劇場運営に思うこと（東京都・八板賢二郎）

地震発生後、東京都の文化施設は帰宅難民を受入れました。東京芸術劇場でも会議室などを提供し、情報収集のためのテレビを設置するため、舞台スタッフたちは大わらわだったそうです。後の新聞の投書欄に、上野の東京文化会館の職員の対応が有難かったとの投稿がありました。公共施設は、こうでなければならないと思います。

残念ながら、JRは乗客を追い出してシャッターを閉ざしてしまいました。

私は以前から申し上げていますが、公共劇場（ホール）はこのような非常時に役立つものでなければならないと思います。観客席やロビーは天井の落下が予測されるので危険ですが、楽屋や会議室なら避難所になります。そのためには平素から訓練や準備も必要で、空き日の楽屋などは稽古や会議に使わせて、それを訓練にすればよいのです。

また劇場の非常口は、可能であれば終演時に開けて、そこからもお客様をお帰しすれば、非常時の訓練になります。欧米のミュージカル劇場は、このようになっているところが多いです。

日本の劇場の観客席は、縦通路になっていて、避難に時間がかかります。終演後の観客のはげを見ればわかります。非常時を最優先した設計になっていないのです。欧米の劇場は左右に退席して、素早く劇場の外へ出られるようになっているので、終演後は瞬く間に観客がいなくなります。このようなことを優先して考える建築家はいないのでしょうか。これは、今後の討論事項ですね。

さて、震災後、公演を打ち切った劇場と、設備の安全と節電のためロビーの照明設備を改造してまで公演を続けた劇場とがあります。日本芸術文化振興会（国立劇場系）は大阪の文楽劇場まで中止にしまいました。東京芸術劇場やパルコ劇場、新橋演舞場などは、施設の安全確認をしつかりやって続行しました。

このようなとき、私は「ブロードウェイは、ニューヨークの9.11の時もやっていたぞ！」と前日本芸術文化振興会の津田和明理事長（元サントリー副社長）が舞台芸術の意義を熱く語っていたのを思い出します。芸能には、痛んだ心を癒す力があるのです。だから、芸能は飲料水のようなもので、私たちにとって欠かせないものです。

テレビ放送も同じこと。チャンネルが沢山あるのだから、惨い映像だけでなく、子供たちのためにアニメなどを放送する局があってもよかったですのではないのでしょうか。いつものことですが、テレビ東京はそれに応えていましたので救われます。

自粛も美しい行為ですが、過剰な自粛は慎むべきです。芸能は不謹慎なモノではないのです。劇場は、大勢の人が一つになることができ、そして元気にしてくれる場所です。

私は、それを確かめようと、節電で車内が暗い電車を乗り継いで東京芸術劇場へ出掛け、当日券を求めて観劇しました。観客たちは劇の中へ心移して、悲しく恐ろしい日常を忘れ、非日常の一時を過ごしていました。

消費すること、特に被災地産の商品を買うことは復興のお手伝いになります。

譲り合いと助け合いを実行しましょう。

■嬉しい再会のひと時（福井県・山下 祐治）

先日、久しぶりに以前勤務したホールを訪ねる機会がありました。私が居たころから計画されていた舞台設備関係の改修も無事に終わって、新しい設備で業務を行ってから約1年が経っております。

改修の計画内容を十分に把握していましたが、実際に目に見てみますと本当に素晴らしい設備に生まれ変わっていました。以前から今の設備であつたらさぞかしオペレートも楽であつただろう、そして楽しかつただろうと少々恨めしくもありました。

舞台業務に関しては後輩がしっかりと守ってくれていて、自分の専門分野ではない照明のことも積極的に試行錯誤を重ね、工夫してより良い空間作りを目指している姿を見せてもらい、非常に嬉しく思いました。大きなホールですと舞台・音響・照明に少なくともそれぞれ一人ずつの技術者が常勤していることが多いかと思いますが、地方の、特に小さなホールではそうは行きません。公演によってはすべてを一人でこなすこともあります。クオリティを考えると正解かどうかは別としても、地域の現実として有り得ることだと思います。「自分の専門は〇〇だから…」と利用者へ断りを入れることなく、すべてを一人で請け負うくらいの気持ち、知識、経験を舞台技術者が身に付けていくことが、自分自身の雇用を守る術にもなると思います。

私自身、若輩者ではありますが、先日の後輩の姿は私の想いをしっかりと受け止めてくれていてと感じられ、非常に嬉しい再会のひと時でした。

■劇場法所感（群馬県・稲田 克彦）

劇場法については、その立場によって大きく考え方が異なるように思います。

私見ですが、経済的な環境の悪化により、今までは余裕があつた文化活動も制約が大きくなり、その活動の方法やあり方自体が大きな変革を余儀なくされている状況です。歴史の法則のような「革命」と「反革命」のように、今は大きな革命の時期でしょう。その流れの中で、劇場法が生まれ何らかの形で機能していくのでしょうか。しかし、完璧なものは生まれず、その反動＝反革命が必ずあると思います。指定管理者制度もまたしかりで、これから修正に入ると思います。「天上がり（民間劇団から役人になった人）」のエリートが冷徹な理論だけでくみ上げたものは、実際にそぐわないものが多いのです。

演劇を始め文化自体が極めて「人間的」なものであり、法律や理論だけでは成り立たず、また、それに沿っているだけでは、おもしろくはなり得ないと思います。ある意味「怪しい」ものの方がおもしろく、そういったものが許容される余裕が文化だと思います。

しかし、その中で私たちは何らかの行動をとらなければなりません。大きな視点で先を見据えながら、厳然とある現実との整合をとりながら、仕事をしてきたいと思います。

■公共劇場のサービス（茨城県・阿部 喜一）

毎年、クリスマス近辺と2月末は幼稚園・保育園の発表会があります。公立・私立を問わず減免になるので、練習日も何日か取っている園もあます。

常駐1名のみで対応しているので、音響・照明とも袖卓を用意して、操作はできるだけ先生にやってもらうようにしています。もともと住民参画から始まった館なので、抵抗なく受け入れてもらえています。もちろん、プラン・仕込みは館側でやりますし、園の規模や方針によって人員配置ができないときはこちらで対応します。実際は、自分でやってしまったほうが精神的にも楽なのですが、操作を経験していく中で裏方に興味をもってもらったり、演出について技術的な理解をしてもらえるようになっていきます。

演出に凝りたい私立保育園には、先生たちにしっかりと操作してもらい、人員の少ない公立保育所では館ですべて操作する。一見、不公平に見えるかもしれませんが、利用者のニーズについて受益者の負担を加味しつつ実現しているつもりです。

公立ホールの委託業者は公務員に準ずるところが多いと思いますので、行政サービスとして「実質的な平等」を心がけています。

「実質的な平等」といってもきちんと線を引くことはできませんから、危うい側面を持っていることは確かです。利用者によって便宜をはかったりするようなことがないように、バランスよく対応していく客観性と理論的な裏付けが必要です。

自治体の研修会などの貸し館でも、映像が入る場合などは袖の調光卓に「明」「暗」の表示をしておいて操作してもらいます。「講師と打ち合わせておかないと暗くするタイミングがわからない」というような当たり前のことに気付いてもらえます。

サービスとは「すべてをやってあげる」ことではなくて、「できる環境を整えてあげて分りやすく説明する」ことだと思います。

■市民と協働で（北海道深川市・坪田栄藏）

私の住む街は人口2万4千人弱の小さな街ですが「み・らいホール（691席）」と「パトリアホール（356席）」の別施設でホールが2つもあるという贅沢な舞台環境にあります。しかし、現在の地方自治体がどこもそうであるように財政難に陥り、2年前から小さなパトリアホールは残念ながら休止されています。

もちろん休止の際は様々な文化団体から反対の署名が自治体に寄せられましたが、大抵の署名運動がそうであるように、その声は自治体に取り入れられることはなく、とりあえず2年の休止ということになりました。そして、その2年が経過しましたが、未だに再開の目処はたっていません。

休止中のパトリアホールは、その規模から市民の発表の場としては最適なものでした。しかし全市民的な規模の大会等には小さいことと「み・らいホール」より12年古いことなどが休止の理由になったようです。私はこのパトリアホールを担当していたこともあり、この休止をととても憂っていました。

財政難が元で休止したホールですから、財政が好転しない限りホール運営の新たな予算は期待できません。しかし、再開を望む声は結構あり、地域の芸術文化を代表する人たちが中心となって再開のための検討が始まりました。まずは市に対して再開に寄せる率直な気持ちを伝え、あまり予算をかけない方法での運営ができないかの模索をすることとなりました。そこで出てきたのが市民の手による自主運営です。利用者からの使用料収入の範囲での運営の検討です。ただ、これらの人々に必ずしも運営ノウハウがある訳ではありませんし、一番のネックになるのは舞台技術面です。以前のように舞台技術の会社に委託できるほど収入は見込めません。そこで現在ホール担当を離れている私ですが、せつかくの市民の熱意を消す訳にはいきません。一緒になって再開の道を検討することにしました。もちろん技術面もサポートするつもりです。

まだまだ検討が始まったばかりで再開の道は険しいとは思いますが、地域の舞台環境を向上させるためにも、市民の熱意を実現できるように頑張りたいと思います。

■劇場法について、さらなる考察を望む（埼玉県芸術文化振興財団・齋藤譲一）

劇場技術者としての半生を、国の「国立劇場」で15年と県の「彩の国さいたま芸術劇場」で13年以上の間働いてきた。「国立劇場」には国立劇場法があったが文化庁関係内だけ通用しているという感がぬぐえず、この法律を社会的に議論し話題になったことはかつて記憶していない。この法が十分な劇場予算の確保と関係があったかどうか定かでないが、今日まで「歌舞伎」「文楽」「能楽」「雅楽」などの日本の伝統芸能が伝承され発展し続けているのは第一に劇場現場で働く人々が支えてきたからにほかならない。

「今、劇場法の成立が話題になっているか」と言えば、そうでもない。一般の人だけでなく、劇場ホール関係者でさえ「どうせ大した役に立たないだろう」と結構無関心なのは残念である。本物の関係者が少ないためだが、劇場を社会的な資本とする基盤整備をおろそかにしたのでは発展は望めない。

重装備の専門劇場で芸術監督制を先駆けて設けた「さいたま芸術劇場」では、当初からその（芸術監督制）是非も含めて周囲から多くの意見や提言があった。

当時の芸術監督は、財団事業から全体の運営まで事細かくすべての実権を握るようになり、強引で独裁とも揶揄されていた。しかし、日本ではまだ耳慣れない芸術監督の登場が、地域性重視ではなく世界観を持った芸術至上主義へと邁進させたのである。先進的な劇場設備を生かし諸外国からの大型引っ越し公演を次々と発表し、世界にまで進出して現代の舞台芸術を牽引したのだった。

当時は県の政策とも相まって予算がかなり計上されていたのが背景にあるが、景気低迷の影響や反発も高まり予算自体はやがて縮小された。当然のように、財団運営の自立が促され行政改革と称して厳しい人件費カット、プロパー職員数を減らし契約や臨時職員で補った。また、観客動員を期待する興業的な事業運営が急務となり、人気と実力のある演出家を招いて次の芸術監督を託した。おかげで常にマスコミの話題となり、芸術監督が次々と生み出すヒット作のおかげで入場料収益が増加、国の芸術拠点形成事業の助成もあって事業予算全体の目減り分をカバーした。しかしながら、大劇場での舞台制作には多大な資金を要するために、早い劇場法成立へと期待感が高まっていた。

それでは、「劇場法」の制定は劇場やホールに何かをもたらすのか。このたび日本を襲った巨大地震は今や大恐慌を呼ぶかもしれない、待ち望む豊かな舞台創造社会の実現は遠い夢となった。復興のために文化振興は先送りとなり予算は削減、催しや公演数・施設利用も減少し大幅な収入減となる。公演は利益優先の興業性重視へ傾斜、地域サービスや公共的な文化活動は二の次となる。大不況下、公益法人への移行も絵に描いた餅で、「劇場法」は名ばかりとなる恐れがある。運営ノウハウのある専門家もいない小さなホールでは、存続も危ぶまれるに違いない。だからといって、限定された一部のエリート大劇場や特定団体のための助成金制度では当然批判も出て来る。

"さいたま"のように、文化功労者として世間を納得させられる芸術監督が、日本に何人いるのかも疑問である。助成金についても、これまでのようなばらまきは通用しない。まずは省エネで、小劇場やホールで実験し人材育成の場を充実させよう。そこで成功した者を、動員力のある専門劇場へとステップアップさせる。有能な人材は、広く日本中にある地域の劇場やホールに派遣し地域に根付かせて創造の裾野を広げる。やがて日本が復興し文化振興にも光が当たるまで創造エネルギーを蓄える時代は続くだろう。

そこで「劇場法」が広く正しく認知されるために、あせらず一般の人々への理解を深める意見交換の場を設けていく、地方の行政機関やホールなどへの周知を図る、日々考察しながら地道な努力が必要となる。



日本劇場技術者連盟は、微々たる予算でなぜ運営できているのでしょうか???
それは、役員をはじめ多くの会員の篤志と、周囲の支持者のご協力があるからです。
当連盟は、このような運営をしながら、社会のためになる事業に協力を惜しまず、譲り合い、助け合う精神を育んで参ります。

瓦版の紙面を、ネット配信を考慮してシンプルにしました。
瓦版はメールで配信しております。是非、アドレスをご登録いただき、連盟の経費節減にご協力ください。

発行：日本劇場技術者連盟 〒179-0085 東京都練馬区早宮 1-27-19 / 発行人：齋藤 譲一

幕内瓦版 第拾貳号

発行 日本劇場技術者連盟



幕内：劇場の幕内側のことで、演者・大道具・小道具・衣装・照明・音響など、舞台を創造する者の総称

新年度を迎えた期待の高まり～若い力の結集～

日本劇場技術者連盟理事長 齋藤 譲一

去る3月11日（金）、東北関東を襲った未曾有の大震災に世界中が震撼させられました。ここで改めて、被災された方々、不幸にも亡くなられた方々に心よりお悔やみを申し上げます。

まだ余震もさめやらない、そんな状況下の中でのことでしたが、先の5月16日（月）に新宿文化センター和会議室に於いて連盟の総会とシンポジウム「この時だから考えよう、劇場の危機管理と省エネ設備」が開かれました。

当日、会場は満席となるほど盛況で、被災地のホールから駆け付けた方々もおり、参加された方々の危機意識の高揚が顕著に表れていました。とりわけ、シンポジウムの問題提議では活発な意見が出され、「劇場を危ない場所にさせない」「いつでも市民のために開放する場を！」という決意が各劇場・ホール技術者の共通の思いでした。

最後の議題「この時期の舞台芸能の上演は不謹慎でしょうか」では、「周囲の自粛ムードに負けるな」、「電力不足は創意工夫でチャレンジすべき」、「元気を生む文化力で国家的災難を乗り切っていこう」、「舞台や客席が使えないならロビーでコンサートを」というような意見が、とくに若い人から相次いで出たのには驚かされました。

「地域の文化は、再生を願う地域住民の協力を得て作る」という、そんな姿勢が誰からも強く感じられ、これからの連盟の目指すところが一つになったようで感動しました。

■シンポジウム

「この時だから考えよう、劇場の危機管理と省エネ設備」を開催

「この時だから考えよう、劇場の危機管理と省エネ設備」と題したシンポジウムを、2011年5月16日（月）、新宿文化センター和会議室で開催しました。

東日本大震災によって、劇場の危機管理と省エネに対する取り組みがさらに一層重要なものとなっています。現状を分析し、どのような対策をとるべきかについて八板副理事長から5つの問題提起がありました。その場で解決策や結論の出る問題ではありませんでしたが、全ての参加者からさまざまな意見が述べられました。

また、震災の影響について参加者から報告があり、実際に大きな被害を受けた劇場の話も聞くことができ、震災に対する備えを考えるきっかけにもなりました。

以下にその要点を抜粋します。

1、安全マニュアルは本当に安全でしょうか！

多くの劇場では、安全マニュアルや危機管理マニュアルが整備されていますが、実際にそれが今回の震災では役に立ったのでしょうか？それは、安心材料にすぎないのではないのでしょうか？

一つの考え方としては、必要最低限守るべきことを記したものが、「マニュアル」であり、

安全は、経験による勘によって、柔軟に対応することで守れるのではないのでしょうか。

もう一度「役立つマニュアルとはどのようなものか」について真剣に議論する必要があります。

2、劇場は危ない場所ではない。安全でシンプルな劇場を作ろう！

劇場は危険なところであるから、如何に事故を起こさないように管理運営していくかという考え方が、劇場技術者の間では一般的であります。

しかし、一般の人からすれば、なぜ安全な場所として最初から設計しないのかという疑問があります。われわれ劇場技術者は、もう一度根本から考えをリセットして、安全でシンプルな劇場を作るべきではないかという問題提起に対して意見が述べられました。

阪神大震災で被災した劇場の関係者からの報告では、吊り天井は避けるべきであるとのことです。その構造から非常に地震に弱いとのことであります。また、地下に電気室が多く作られますが、これも震災時には水没などのおそれもあり避けるべきであります。また、観客席の並びに非常口を設けて、ホールの横方向に逃げられる設計も採るべきではないかとの意見もありました。古くは、ワーグナーが考案したアイデアとのことです。

劇場の技術者も、劇場技術のみでなく、以上のようなことを日々考え、設計者に伝えることが重要ではないのでしょうか。

ところで、東京の九段会館では、地震の際に天井が崩落し、犠牲者が出てしまいました。しかし、以前から国土交通省から修繕の要請があったとのことで、危険な箇所に対しての対応は迅速に行うべきことを示唆しています。

3、劇場の省エネ

昔はニッパチ、すなわち、2月と8月は催し物を行わない時期であつたらしいのですが、本当に省エネを考えるならそのくらいの意識改革を以て取り組むべきではないのでしょうか。それは、夏場や寒中の劇場休業も想定すべきかも知れません。

すぐに取り組めるものとしては、照明のLED化、雨水の利用や太陽光利用による一部電力のカットなどが挙げられ、さまざまな省エネの手法について議論されました。

4、非常時の公共施設の役目とは何か？

劇場が、安全な避難所として活用できないか？日頃から、楽屋やロビーを市民に開放できないか？劇場は、公演を行うためだけでなく、非常時にも公共施設として何か役に

立つことはできないのでしょうか？

参加者の中には、自らの劇場が支援物資の集積場所として活用されたという話もあり、公共施設としてのあり方の参考となりました。

5、この時の舞台芸能の上演は不謹慎でしょうか？

震災直後どの劇場でも多くの催し物が中止や延期になったようです。しかし、本当に中止、延期されるべきであったのでしょうか？ ここで、「文化とは何か」が深く考えられるべきでしょう。本当に必要なものであるなら、公演が可能な劇場ではやるべきではないのでしょうか。自粛とはどのような意味を持つのでしょうか？ もう一度周りの状況に流されずに議論してみるのが、劇場技術者の役割ではないのでしょうか。

●参加者の感想

◎シンポジウムに参加させていただき、ありがとうございました。

多くの問題提起、提言がされた中で、安全マニュアルについての討議が私には一番考えさせられました。

地震当日の桶川市民ホールの状況もお聞きしましたが、そこでは、マニュアルにしばられた杓子定規な対応だけでなく、経験のある劇場技術者として、時には機転を利かせた対応が求められている、ということのようです。

私一人でできることは少ないかもしれませんが、皆さんと協力しながら、これからの劇場運営、舞台運営を考えていきたいと思えます。（埼玉県・奈良 暁）

◎マニュアルとは何か？

昨今、役に立たないものがマニュアルという固定概念が定着しているような気がします。しかし、本当に必要のないものなのでしょうか？

思うに、マニュアルの役割がしっかり認識されていないために、体裁としては必要だが、役立たないもの＝マニュアルとされているように感じます。

マニュアルにも以下のように ①取扱説明書＝機器類の操作方法を説明するもの ②業務マニュアル＝誰でも同じように仕事ができるように標準化するもの ③企業倫理、組織の行動規範や規律などをまとめたものなどに分類されると思います。そして、それらの目的や役割がしっかり伝えられずに、また、認識されないために役に立たないものになっているような気がします。

以上のどのマニュアルにしても、作り手と使い手が工夫してその組織に必要なもの、その対象に適したものとして作り上げないと必要のないものになると思います。要するに、問題意識があるかないかだと思います。

自分の気分や都合に合わないという理由で、「マニュアル」が敬遠されていないのでしょうか？ 今回のシンポジウムで、マニュアルとは何かを考えるきっかけをつかんだような気がします。（群馬県・田中 明）



交流会

シンポジウム後に、恒例の交流会が開かれ、楽しく歓談しました。アルコールという潤滑油が入り、議論も滑らかになります。それゆえ、参加者の親密度も増し、有益な情報交換ができますので、講座やシンポジウムだけでなく、交流会にも参加されることを是非お勧めします。

今回のお奨め情報のひとつは、所作台の積み方でした。みなさんの劇場では、どのように収納しているのでしょうか？ 正しい積み上げ方は、面と面を合わせずに、敷いてある状態でそのまま積み上げるというシンプルなものだとのこと。さらに、長期間使用しない場合、所作台のスベリの下に紙を挟むと通気がよくなり、木のためには良いそうです。当たり前と思われる方も多いとは思いますが、最近できた有名な某劇場では、面と面を合わせて収納していたそうで、こういった情報は共有したいものです。

もうひとつ、劇場内の節電についてのユニークな提案は、なるほどと思いました。それは、劇場内客席の空調が、今夏はあまり強く効かせられないことが予想されます。そこで、お客様に冷たい飲み物など摂っていただくことにより、暑さを凌いでもらったかどうかというものです。つまり、空気が冷やせないなら体を冷やしてしまおうという発想です。通常は、飲食禁止ですが、お客様の健康にも良いので、一考の余地があると思います。うまくいけば自販機の売り上げも伸びるのではないのでしょうか。

新任理事から一言

■ 小松 正俊（宮城県・中新田パツハホール）

縁あって日本劇場技術者連盟の一員として微力ながらも活動して来ましたが、今回本連盟の理事に推薦いただき大変気持ちの引き締まる思いです。今後も東北を活動の拠点として精一杯努力し、より有意義な日本劇場技術者連盟となるよう頑張りますので宜しくお願いいたします。

私は、今回の東日本大震災では桶川で被災し帰宅難民となり避難生活を送る中、沢山の仲間にも助けられ、そして励まされ3月19日の夜に無事帰宅することが出来ました。幸い家族や自宅は無事でしたが、勤務する劇場の一つがプロセニウム及び客席天井が半壊し、まだ再開の目処が立っていません。

今回被災した劇場は、一日も早い再開を目指し日々復興作業に追われていますが、宮城県内の劇場はまだ1割程度しか稼働していません。

早期復興を目指し被災地では、皆自分の出せる最大限の力を振り絞って『頑張ってい

ます』。今、本当に頑張らなければいけないのは、震災で『生かされた』私たちです。こんな時だからこそ、私たちは劇場技術者として『劇場の存在による心と文化芸術の復興』を目指し皆で互いに手を取り合い頑張りましょう。応援・支援の程、宜しく願います。

■市ヶ谷昌典（東京都・株式会社リクランド）

今回の震災で被災された地域の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

私は劇場に育てられここまで仕事をしてくる事ができました。今も照明家として日々刺激を受けております。でも、私の周囲では演劇は斜陽の文化と言う人がいます。決して無くなる事はないでしょう。でも今は、UXデザインの時代!すなわち、利用者が体験する楽しさとか心地よさといった価値を重視する user experience が渴望されているのです。

劇場の役割も多様化している今、そこで働くすべての人がUXを考える事が共通の課題だと考えます。私もその事を日々考えつつ、微力ながら劇場に貢献出来れば幸いです。

どうぞよろしく願います。

■自分たちだけの話から抜け出よう！ 平野 克明（群馬県・群馬音楽センター）

このたび縁あって本連盟の理事に就任しました。微力ながら、お手伝いをさせていただきますので、お付き合いよろしく願います。

さて、この5年ほどの間にわれわれを取り巻く世の中が、大きく動いています。指定管理者制度に始まり、リーマン・ショックで経済が悪化し、自民党から民主党へと政権が変わり、今回の大震災。

このように目まぐるしく動く世の中で、ともすれば、厭世的な気分になり、滅入りそうな毎日ですが、日本劇場技術者連盟の活動に参加するようになってから、いろいろな不安や悩みが解消されました。というのは、本連盟の理事並びに参加される方々は、技術者として日本一流でありながら、実に気さくな方々であり、さまざまな相談に乗っていただき、有益な示唆をいただけるからです。

この瓦版の創刊号の頃には、ページの下の部分に「自分たちだけの話から抜け出よう！」のフレーズがありました。すなわち、狭い付き合いの中だけでは、答えは出ない、外に答えを求めて活動すべきであるということと、私は解釈しています。実際、本連盟の八板副理事長は「外の人とお付き合いしなさい。」とよく言われますが、まさにその通りだと思います。

全ての会員の方がこの連盟を真に活用されて、劇場技術者の明るく楽しい将来が保証されると共に、僥越ながら、私がおの一助となれることを願ってやみません。

第5回通常総会報告

日本劇場技術者連盟第5回通常総会が、平成23年5月16日（月）13時30分から14時45分まで、新宿文化センター和会議室で開催され、活発な議論の末、以下の議案が承認されました。

第1議案 2010年度事業報告

- ・2010.4.19 総会開催。@埼玉会館：埼玉
- ・2010.7.12 講演会「劇場技術者のエコ挑戦～これからの省電力と舞台照明を考える～」開催。@ルノアール四谷店：東京
- ・2010.7.22～23 「第一種・第三種劇場技術者検定講座」開催。
@コスモシアター：大阪府貝塚市
- ・2010.9.2～3 「第一種・第三種劇場技術者検定講座」開催。
@バツハホール：宮城県加美郡加美町中新田
- ・2010.11.29 裏方の教養講座「日本で演じられてきた演劇たち～創造する劇場技術者のために」開催。@新宿文化センター：東京
- ・2011.3.1～2 一般社団法人日本音響家協会九州ブロック主催「第一種・第三種劇場技術者検定講座」の運営指導。@宮崎市民ホール
- ・2011.3.10～11 「第一種・第三種劇場技術者検定講座」開催。@桶川市民ホール：埼玉
- ・2011.3.15～16 一般社団法人日本音響家協会九州ブロック主催「第一種・第三種劇場技術者検定講座」の運営指導。@長崎公会堂

第2議案 2010年度決算報告

五十嵐裕会計担当理事と戸張浩一監事から報告があり、質疑応答の後、満場一致で承認。

第3議案 役員改選

理事と監事は任期満了となったので改選案を提示し、出席者からの意見も考慮して、以下のとおり決定。

理事（留任） 小坂部恵次（京都造形芸術大学）、五十嵐裕（パシフィックアートセンター）、齋藤譲一（熊谷会館）、高橋三十四（桶川市民センター）、出井稔師（都城まちづくり株式会社）、羽田野晋嗣（株式会社サイオー）、八板賢二郎（ザ・ゴールドエンジン）、山形裕久（コスモシアター）、山形等（札幌市教育会館）

理事（新任） 市ヶ谷昌典（株式会社リクランド）、平野克明（群馬音楽センター）、小松正俊（中新田バツハホール）

監事（留任） 戸張浩一（上尾市文化センター）

第4議案 2011年度事業計画

事業担当理事から案が提示され、質疑応答の後、満場一致で承認された。また、埼玉県舞台技術協会から共同開催の依頼があったことも報告され、これも承認された。

- 1、舞台関連の作業場の見学（大道具製作場、衣裳製作場などを予定）
- 2、教養講座「日本の音楽、西洋の音楽」
- 3、教養講座「映画館の変遷と現状」
- 4、教養講座「舞台監督の仕事」
- 5、劇場運営に関するシンポジウム
- 6、第2種劇場技術者検定講座の開催
- 7、第1種、第3種劇場技術者検定講座
- 8、その他、「東北の劇場技術者を励ますイベント」などを随時開催

第5議案 2011年度予算案

五十嵐裕会計担当理事が予算案を提示し、質疑応答の後、満場一致で承認。

第6議案 会則の変更

以下の会則の変更が、満場一致で承認。

- 1、第7条 会員になるときの推薦人数が2名から1名へ変更。
- 2、第11条 退会時には、理事会の承認なしで、退会届の提出のみに変更。

第7議案 その他

劇場技術者報酬標準額の策定について協議したところ、新委員により再検討することにした。

※ 詳細はホームページ 2011年第5回通常総会議事録をご覧ください。

お知らせ

■製作現場を見に行こう「衣裳編」：宮本宣子ワークショップ見学と交流会

蜷川幸雄作品や井上ひさし作品、そしてテレビドラマ「華麗なる一族」や東京ディズニーランドなど、ワイドなジャンルで数々の衣裳デザインを手掛けている宮本宣子先生のワークショップ（作業場）を訪問します。

演劇やショーの登場人物の性格と身分、その場面の時代と季節などを表現する衣裳。その製作場を覗いてみましょう。

見学の後には、買い物客で賑わう懐かしき商店街・谷中銀座を散策して、衣裳製作スタッフの皆さんとの交流を予定しています。

見学だけの参加も大歓迎です。

2011年6月13日（月）15時30分集合

集合場所→ JR日暮里駅・南口改札口

当日緊急連絡先→ 090-3246-8766

第1部 見学 16時～17時30分 参加費 無料

第2部 谷中散策と交流会 18時～19時30分を予定 会費 3,500円

お申込先 teec@pure.ocn.ne.jp 第2部の「参加、不参加」を明記の上ご連絡をください

お申込み〆切 6月3日（金）

主催 日本劇場技術者連盟

協力 宮本宣子ワークショップ

日本劇場技術者連盟/会友連名

- ザ・ゴールドエンジン ■ 株式会社 東広 ■ トランスサウンドテクノロジー株式会社 ■ 社団法人 日本演劇協会
- ネットワーク株式会社 ■ 株式会社 パシフィックアートセンター ■ 株式会社 ビーエーシーウエスト
- 株式会社 マクロスジャパン ■ 株式会社 松村電機製作所

発行 日本劇場技術者連盟

発行人 齋藤 譲一

編集人 平野 克明

発行日 2011年5月31日